

翻訳にあたってのヒント

その 99

■ リビアのガダフィー大佐について

2011年10月にリビアのガダフィー大佐が殺害されたということで、42年間続いた軍事独裁政権が完全に終止符を打ったように思われる。

マスコミで伝えられてきたあの面構えやその過激な言動から、私はこの人が根っからの極悪人だと思っていたが、この事件をきっかけに調べていくうちに、必ずしもそうではないことが分かってきた。むしろ善人だと言っても語弊がない人物である。無論、欧米にすり寄りよからぬこともしてきたであろうが、それは自国の存続とアフリカの将来のためであって、今となっては、呉越同舟だったのではと思えてくる。

なお、日本では「ガダフィー」「カダフィー」と呼ばれているが、世界的には「カッザーフィー」という読み方が主流だそうである。

View Entire Story Here, Here & Here

● ムアンマル・アル＝カッザーフィー [アラビア語: [مِنَالْقَذَافِي أَب. - .او. و معمر](#) mu'ammār 'abū minyār al-qaddāfī, 1942年6月7日 - 2011年10月20日]

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A0%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%AB%EF%BC%9D%E3%82%AB%E3%83%83%E3%82%B6%E3%83%BC%E3%83%95%E3%82%A3%E3%83%BC>

● 2011年10月27日 リビアで二度と見られなくなる16項目

<http://eigokiji.cocolog-nifty.com/blog/2011/10/16-6517.html>

リビアで二度と見られなくなる16項目 2011年10月24日、Sayaによる投稿記事 2011年10月26日(水)

1. リビアには電気代の請求書が存在しない。電気は全国民、無料だ。
2. 融資には金利がなく、リビアの銀行は国営で、全国民に対して与えられる融資は、法律で金利ゼロ・パーセント。
3. リビアでは住宅を所有することが人権と見なされている。
4. リビアでは全ての新婚夫婦が、新家族の門出を支援するため、最初のアパート購入用に、政府から60,000ディナール(50,000ドル)を受け取る。
5. リビアでは教育と医療は無償。カダフィ以前、識字率はわずか25パーセントだった。現在、識字率は83パーセント。
6. リビア人が農業の仕事につきたい場合には、農園を始めるための、農地、家、器具、種、家畜が、全て無料で与えられる。

7. リビア人が必要な教育あるいは医療施設を見いだせない場合、政府が外国に行くための資金を支払い、さらには実費のみならず、住宅費と自動車の経費として 2,300 ドル/月、支払われる。
8. リビア人が自動車を購入すると政府が価格の 50 パーセントの補助金を出す。
9. リビアの石油価格は、リッターあたり、0.14 ドル。
10. リビアに對外債務は無く、資産は 1500 億ドルにのぼるが、現在世界的に凍結されている。
11. リビア人が、卒業後就職できない場合は、本人が雇用されているかのごとく、特定職業の平均給与を、職が見つかるまで国が支払う。
12. リビア石油のあらゆる売上の一部がリビア全国民の銀行口座に直接振り込まれていた。
13. 子供を生んだ母親は、5,000 ドル支払われる。
14. リビアでは、パン 40 斤が 0.15 ドル。
15. リビア人の 25 パーセントが大学の学位を持っている。
16. カダフィは、この砂漠国家のどこでも自由に水が得られるようにするため、大人工河川計画として知られる世界最大の灌漑プロジェクトを遂行した。

● **Life in Libya with Leader Gaddafi:** <http://libyasos.blogspot.com/p/gaddafi.html>

上記の日本語と必ずしも合致していないが、大方は一致（リビアはアフリカで一番豊かな国 [だった]）。

1. Electricity for household use is free,
2. interest-free loans
3. during the study, government give to every student 2 300 dollars/month
4. receives the average salary for this profession if you do not find a job after graduation,
5. the state has paid for to work in the profession,
6. every unemployed person receives social assistance 15,000 \$/year,
7. for marriage state pays first apartment or house (150m2),
8. buying cars at factory prices,
9. LIBYA not owe anyone a cent,
10. free higher education abroad,
11. 25% of highly educated,
12. 40 loaves of bread costs \$ 0.15,
13. water in the middle of the desert, drinking water,
14. 8 dinars per liter of oil (0.08 EUR),
15. 6% poor people,
16. for each infant, the couple received \$ 5,000 for their needs.

- カダフィの真実を知ってほしい リビア 新世界秩序 NATO

<http://www.youtube.com/watch?v=aggieI4YAVw>

- リビア：カダフィが殺される3つの理由 衛星+アフリカ通貨基金+統一

http://www.youtube.com/watch?v=Y9CphgEuFP0&feature=player_embedded

- ガダフィー大佐はユダヤ人：

<http://www.israeltoday.co.il/tabid/178/nid/22668/Default.aspx>

大佐の母がユダヤ人なら大佐もユダヤ人と認められる。ユダヤ人を殺害して財産を奪うのが、偽ユダヤ国際金融資本の流行りらしい。政治的シオニストとは、共産主義かつ悪魔教崇拜者。間違っても神の僕では無い。イスラエル人は偽ユダヤの存在に騙されない様気を付けるべきだ。

- 2011年10月24日 シオニストによるカダフィ殺害 By Brother Nathanael Kapner

<http://satehate.exblog.jp/17005328/>

<http://rockway.blog.shinobi.jp/Entry/631/> の転載（若干手直し）

シオニストによる「カダフィ」殺害 By Brother Nathanael Kapner 10月21日 Real Zionist News

The Zionist Murder Of Muammar Gaddafi

<http://www.realzionistnews.com/?p=666>

シオニストに支援された反乱による残虐なカダフィ殺害は、ユダヤ系国際的銀行に抵抗した政治的リーダーに何が起きるのかということを示す例である。

カダフィは5つの分野でロスチャイルド系世界的銀行カルテルの参加要請を拒否した。

- ・ 共通通貨を持つアフリカ連合
- ・ リビア中央銀行
- ・ 150 トンの金塊
- ・ 石油産業 = 原油埋蔵量は世界8位
- ・ 青い金としての水資源 = ヌビアン帯水層

これに加えて、

- ・ アフリカ独自の通信衛星（中ロ製で4億ドルで可能だというが、リビアは3億円を拠出）
- ・ アフリカ通貨基金（AMF）の設立
- ・ アフリカ中央銀行
- ・ アフリカ投資中央銀行
- ・ アフリカの統一（USA=United States of Africa）

2011年7月、カダフィの後継者と見なされていた息子である「サイフ・アル・イスラム」は、リビアの黒いダイヤとしての石油だけがシオニスト系欧米が求めているものではなく、リビアの青い金としての水も彼らが求めたものだ、と述べた。リビアの地下には「ヌビアン・スタンドストーン帯水層」が500マイルに渡って存在している。

この「ヌビアン帯水層 (Nubian sandstone = リビア、エジプト、チャド、スーダンにまたがる、他にもリビアとチュニジアにまたがる North western sahara の帯水層もある)」は北アフリカに残っている唯一の淡水資源であり、そのため「水戦争」と今言われる状況での焦点となっているところだ。

世界最大の二つのフランスの水道関連企業である、ヴェオリア[Veolia]とスエズ SA[Suez SA]は、このヌビアン帯水層を獲得しようとしている、とアル・イスラムは語る。水によって生産される食糧によって膨大な利益を得ることができるからだ。

ヴェオリアとスエズ SA の両社とも、他の多国籍企業同様、ユダヤ系資金によって支えられていることは間違いないことだ。またユダヤ系企業のルイス・ドレフュス・インターナショナル[Louis Dreyfus International]が食糧ブローカーであろう。

アル・イスラムは、シオニスト・ユダヤ人によってコントロールされている IMF と世界銀行のローンの全ては、その水資源を私企業に売却することが条件で組まれていると指摘する。

シオニスト所有のリビアの反乱者によってセイフ・アル・イスラムは10月21日包囲され、同日彼の父親は捕えられ無慈悲に殺害されたので、セイフ・アル・イスラムのシオニスト・ユダヤに対する証言は、永久に封じられた。

国際的ユダヤ系銀行カルテルに対するカダフィの主要な脅威は金を裏付けとするリビア・ディナールのアフリカ共通通貨計画であった。これはアフリカの主要通貨であるドル、ポンド、フランというすべての不換通貨にとって代わることになったであろう。

ユダヤ系銀行利益は、アメリカ・ドルがユダヤが運営する連邦準備銀行で；イギリス・ポンドがユダヤが運営するイングランド銀行；そして、フランス・フランがユダヤが運営するフランス銀行によって支えられている状況なので、明らかに行き詰まっている。

リビアに対する三つの最大の侵略者たち、シオニストが買収した指導者たちである、「オバマ、キャメロン、サルコジ」のアメリカ、イギリス、フランスがリビア元首のムアマル・カダフィの残虐な殺害を称賛したことは、驚くことだろうか？ 驚きではありえない。

● カダフィ殺害に浮かれたクリントン国務長官の発言が輦蹙を買っているが、この処刑は国連や人権擁護団体だけでなく、イスラム世界の人びとから厳しい目で見られている可能性 (2011年10月26日 カダフィ大佐の息子も生きて拘束された後に処刑された可能性が高く、米英仏軍と手を組んだ反カダフィ軍の戦争犯罪が今後、問題になってくる可能性が高い リビア 櫻井ジャーナル <http://satehate.exblog.jp/>) 2011.10.23 <http://plaza.rakuten.co.jp/condor33/diary/201110230000/>

リビアのムアンマル・アル・カダフィが殺されたことに関するヒラリー・クリントン米務長官の発言が話題になっている。「来た、見た、死んだ」と CBS のインタビューの中で口にしたのだが、人の死をこれほど露骨に喜ぶ政治家を見ることは珍しい。

<Naked, Bloody Imperialism or "We Came, We Saw, He Died"〜カダフィ死亡疑惑と
プ ロ パ ガ ン ダ >
<http://www.sott.net/articles/show/236679-Naked-Bloody-Imperialism-or-We-Came-We-Saw-He-Died->

紀元前 47 年、ポントス王ファルナケス 2 世との戦いに勝った「ユリウス・カエサル」は、その勝利を腹心のガイウス・マティウスに知らせている。そのときに書いたと言われているのが「来た、見た、勝った」。この言葉をもじっての発言だろうが、品が良いとは言えない。インタビュー後、カダフィ親子が「処刑」される様子がインターネットやメディアで流され、クリントン長官にとって最悪の展開だ。残虐な政治家というイメージは当分の間、ぬぐい去ることができないだろう。国務長官としての仕事にも支障をきたすことになりそうだ。

最後に、ガダフィー大佐には 12 人の影武者が用意されているらしいということをお伝えしておく。

これにて第 99 回目終了。